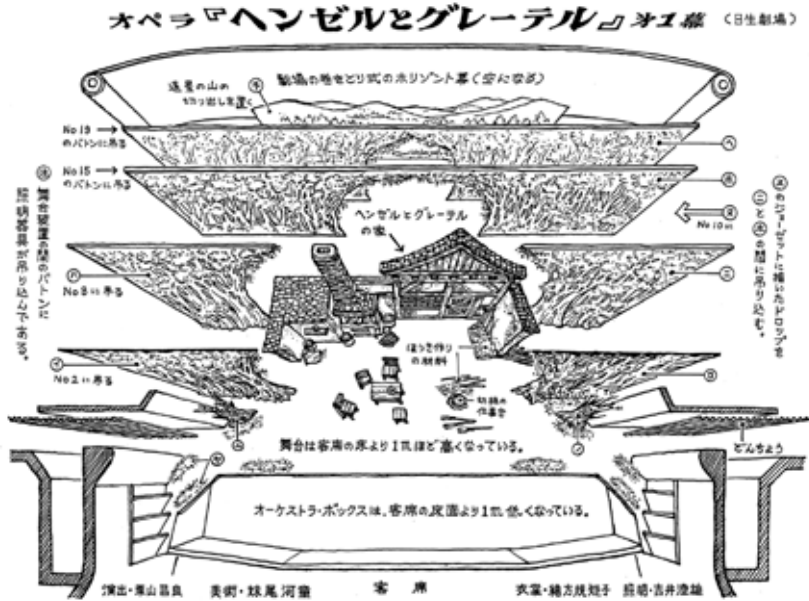


# 劇場王国復活へ向けて Part ②

娯楽の殿堂復活により集落は生き返るか?!

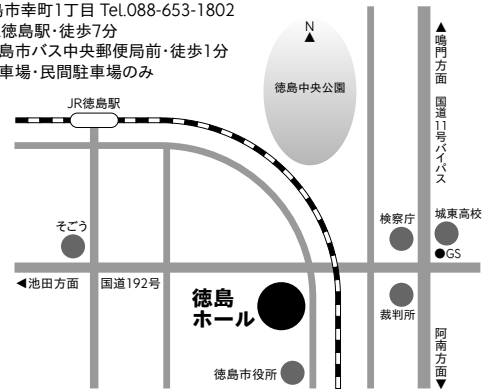


- 13:00 基調講演 講師 妹尾河童
- 14:30 休憩
- 14:40 大和会長挨拶
- 14:45 パネルディスカッション
- 16:00 閉会

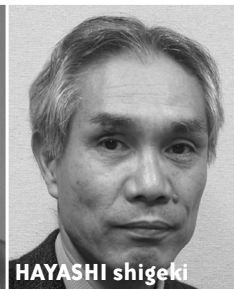
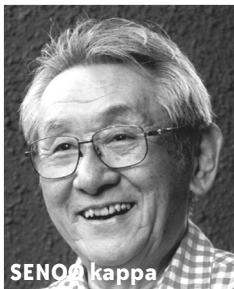
## 会場アクセス

### 徳島ホール

- 徳島市幸町1丁目 Tel.088-653-1802
- JR徳島駅・徒歩7分
- 徳島市バス中央郵便局前・徒歩1分
- 駐車場・民間駐車場のみ



## ▼シンポジウム参加者プロフィール



### 妹尾河童(せのお かつぱ 舞台美術家・エッセイスト)

1930年、神戸生まれ。グラフィックデザイナーを経て、1954年独学で舞台美術家としてデビュー。演劇、オペラ、ミュージカル、歌舞伎など、ジャンルを越えて幅広く活躍中の、現代日本を代表する舞台美術家である。『紀伊国屋演劇賞』『サントリー音楽賞』『芸術祭優秀賞』『読売演劇大賞』ほか多数の賞を受賞。またエッセイストとしても知られ、ユニークな細密イラスト入りの著書『河童が覗いたシリーズ』の『ヨーロッパ』『ニッポン』『インド』など、お馴染みの著書が多い。また戦中・戦後の神戸を舞台にした小説『少年H』は、300万部を突破する驚異的ベストセラーとして全国で話題を集め、『毎日出版文化賞・特別賞』などを受賞している。また日本国内だけでなく、英語、中国語、韓国語にも訳され、海外でも、「あの戦争中、日本はこうだったのか」と理解され評価されている。

### 吉原美恵子(よしはら みえこ)

1961年大阪生まれ。1990年より徳島県立近代美術館に勤務。主に、国内外の現代美術を調査・研究対象としている。2007年「凍熱ーハンス・ペーター・クーン」展などを企画開催。

### 今治秀雄(いまじ ひでお)

1967年阿南市生まれ。高校時代、県南の高校生を集めた劇団いでたまごの旗揚げに参加。大学進学で上京、当時盛んであった小劇場で演劇活動を行う。1993年帰徳、地元劇団テアータ80に入団、翌年より演出・舞台美術を担当している。現在、年1回の本公演の他、阿南の劇団夢創、県内劇団の公演に参加している。昨年、発足した徳島演劇ネットワークの代表世話人でもある。本業は鉄骨加工業。1級建築士・社団法人徳島県建築士会所属。

### 浅香寿穂(あさか ひさほ)

明治大学文学部演劇専攻を卒業後、徳島の県立高校に勤務。高校演劇に関わり、戯曲に『海鳴り』『うなばら』『よしこの』『コケッコ』『おびたしき遍路の列』などがある。演劇に関する論評、徳島近代演劇史、劇評を徳島新聞などに発表。2004年全国高校総合文化祭徳島大会総合開会行事のシナリオ、「踊らなSong Song!」の構成や総合アドバイザーを務める。長唄から演劇・ミュージカル・オペラ等の舞台、徳島ロケの映画・テレビのドラマにも出演している。現在、日本劇作家協会会員、日本笑い学会会員、全国高等学校演劇協議会顧問、四国大学短期大学部准教授(演劇文化論)。第22回国民文化祭・とくしま2007では、実行委員会企画委員長、分野別の各企画委員も務める。

### 林 茂樹(はやし しげき)

1949年小松島市生まれ、大学卒業後林建築事務所勤務。1984年徳島県建築士会の若手を中心に阿波のまちなみ研究会を設立、代表に。会では脇町や貞光の「うだつの町並み」調査や県南漁村の「ミセ造りの町並み」調査など町並みや民家の調査、まちづくりの提案などを行う。1988年より県下の農村舞台の実態調査を行い1992年「阿波の農村舞台」出版、この本が契機となり色々な分野の方々が集まり2003年農村舞台の保存と活用を目指した「阿波農村舞台の会」を設立、副会長に就任する。2002年～2006年徳島県建築士会会長。

### 岩瀬弥永子(いわせ やえこ)

徳島市生まれ。上野学園大学音楽学部音楽科卒業。元四国放送アナウンサー。四国放送テレビ「おはようとくしま」初代司会者。現在四国放送ラジオ「日曜懐メロ大全集」の司会者。NPO日本朗読文化協会会員、認定講師。瀬戸内寂聴監修「声にして楽しむ源氏物語」朗読CD(キングレコードより)、銀座博品館劇場「朗読の日」公演出演、八重洲ブックセンター朗読。学校など土曜学習で源氏物語などの授業を行っている。松戸市萬満寺「朗読芝居・小泉八雲・怪談」出演、徳島新聞カルチャー「朗読」講座講師、朗読・かたりの会「風」主宰、ラジオドラマ、傾く朗読公演等多岐にわたり活躍の場を持つ。